

あなたは、あなたの町に何をつくってほしい？

まちづくりの住民アンケートで、子どもにも意見を聞くことがある。子どもに「あなたは、自分の町の大人たちにどんなことをしてほしいですか」と尋ねる。田舎町の子であれば、コンビニ、デパート、ゲームセンター、ショッピングセンター、ディズニーランドをつくって欲しいという意見が多くなる。子どもは、誰かが何か言う「ぼくも、わたしも」となって、みんな同じことを競って書くのでアンケートにならない。もっとも、上記以外の言葉を子どもたちが持ちあわせていないことも確かで、それは大人も同じだ。

「崖の上のポニョ」の舞台のモデルになった広島県福山市の「鞆(とも)の浦」。この小さな湾の埋め立てと架橋工事を巡り、反対派市民が県を相手に訴訟を起こし、広島地裁は、その景観は「国民の財産」であるから開発はダメという判決を出した。市も県も、その判決に強く反発している。おそらく、多くの地元住民が開発を支持していたからだろう。地元が望んでいるのに、今さら「国民の財産」という理由で開発が差し止められたんじゃ、これから先、開発も行政もできないとの思いがあるのは、建設業者や行政職員だけではないだろう。

政権交代と広島地裁の判決は直接には関係ないが、政権交代後のダム事業の中止宣言や担当大臣による地元への直接謝罪といい、鞆の浦の判決といい、これまでだったら考えられないことだ。政治とか行政とか地域づくりに関して、はっきり潮目が変わった感じがする。

元々ダムそのものを、水没する地域の住民が欲しがったとは思えない。それが計画から40年も50年も経過し、親子3代にわたる問題になってしまえば、外部の者には想像できない禍根が地元にはあるだろう。これまでにつぎ込んだ莫大な税金のこともある。流した汗も涙も、失われた家族の絆もある。もしかすると失われた命も。・・・しかし、ここは一旦その過去を断ち切ることが必要だ。国も地方自治体も、今の、鞆の浦の判決が出る、この流れを止めてはいけないと思う。そして、それを確実にするためには、住民も変わらねばならない。

これまで住民は、「何が欲しい？」と問われ続けてきた。問われれば、道路とか図書館と答えた。住民から先に、図書館をつくって欲しいと言う場合もあった。そんな言葉しか持ちあわせていなかったところに問題がある。中には、切実な言葉だったものもあろうが、多くは語彙の少ない一部の人の声でしかなく、聞こえてこなかった声の中に大事なものがあつたのだろう。

地域づくりの基本は、「あなたの地域に何が欲しいか」の問いに、住民が答えを出す作業である。確かに今でも道路も橋も欲しいものではある。図書館もよく欲しがられるが、「使いものしないのに！」と思う人が、そう言うので腹が立つ。一方で、高速道路は、自分でたまに利用するとすごく便利で、やっぱりいいなあって思ってしまう。道路が地元の人にとって重要であることも理解できる。自分の中にも、ご都合主義の2つの人格がある。それを認めた上で、これからは、開発の可否を、住民が何かの基準で、どこかで線引きして判断しなければならない。

冒頭の子どもアンケートの自由記述に、こんな内容のものがあつた。・・・「市は借金で大変だけど、いろんなものをどんどん造ればいい。オレが将来市長になって、借金は全部返済してやる。」「わたしは、新しいふでばこが欲しいけど、家にお金がないので我慢します。」「・・・自分でお金を出してでも欲しいものは何か。まず、そのレベルでしっかり考える必要がある。